

平成25年度 学校関係者評価書

学校名 和歌山市立 有功東小学校

作成日 平成25年3月11日

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	生活科・総合的な学習等研究推進
本年度の重点目標に対する意見	<p>○「信頼される学校」を学校運営の基本方針に据えた姿勢は、保護者や地域住民にとって安心感を与える。大切なことである。</p> <p>○地域の人材活用が進んできている。より一層の充実を図り、地域のすばらしさに気づき、地域を愛する子どもを育ててほしい。</p> <p>○地域の「共育おもしろ運動会」や「有功元気まつり」への参加は地域の方々とのふれあえる良い機会となっている。</p>	<p>○校区の自然環境、社会環境などを生かした体験的な活動を取り入れていくことは、子どもの豊かな感性を育むのに効果的である。</p> <p>○教育的課題である「いじめ」問題を、「いのちの日」を設定して取り組んでいくことは、生命の大切さ、尊さを育むことにつながる。</p> <p>○図書室や「うちどくコーナー」が充実しつつある。また、外部から読み聞かせの講師も招いている。環境を整えることは、子どもたちの読書意欲を高めていると考える。</p>	<p>○共に学びあい、問題解決していく力は、すべての教科の基本であり、より一層「確かな学力」の向上をめざして取り組んでほしい。</p> <p>○家庭学習の充実は子どもの伸びにつながる。学年に応じた家庭学習プランの作成を強く望みたい。</p>	<p>○有功東小の伝統的な取り組みである生活科や総合学習である。さらに校区の「人・もの・こと」に目を向け、取り組みを進めてほしい。また、生活科や総合的な学習の時間で培っていく力を確かな学力につなげてほしい。</p>
取組の具体的方策に対する意見	<p>○11月に研究発表会を開催し、市内の教職員に対し、実践を発信した。有功東小らしさがうかがわれる。</p> <p>・10月に名古屋フィルハーモニーの演奏会があり、保護者や地域の方々の参加も多かった。「本物にふれる良い機会であった」と参加者からの評価が高かった。</p> <p>○運動会を土曜日に実施した。雨天の場合日曜日に実施できるため、参観者の増加につながった。</p> <p>○地域の回覧板に「六十谷の子」を定期的に発行したため、学校の考えや子どもの様子がよくわかった。</p>	<p>○多様な体験活動を通して「世界一素敵な学校を一緒に作ろう」と呼びかけ、子どもたちの合言葉になっている。子どもたちの心に訴え、進むべき方向性を示すことにもなっている。</p> <p>○心をひらく出発点は「あいさつ」であろう。保護者のアンケートでは、前年より6.3ポイント低くなっている。より一層の取り組みを期待したい。</p> <p>○読書の環境が整いつつある。今後も子どもたちが読書は楽しいと感じられるよう継続した取組を期待したい。</p>	<p>○校内研修を充実させ、教師の授業力の向上に努めていることは評価できる。また、学習態度の育成にも取り組んでいるため、学校行事や集会などでの子どもたちの活動の様子や話を聞く態度、見る態度が良くなった。</p> <p>○どの学年でも体験的な学習に取り組んでいる。実物を通して学ぶことは子どもの確かな学力につながるものと思う。</p> <p>○各学級がマイカリキュラムを作成するなど担任の個性を生かした教育実践がなされている。</p>	<p>○25・26年度の2年間、和歌山市教育委員会の研究指定を受け、研究に取り組んでいる。たゆまず研究し、実績を重ねていくことは、教職員の自信と誇りになり、教師力を高めていくことにつながる。また、子どもたちの学力向上や子どもたち自身の自信と誇りとなるであろう。</p>
取組の成果と課題に対する意見	<p>○今年度も禁煙教育や薬の正しい飲み方、また、人権教育など、多くの専門家を招き出前授業が実施されている。</p> <p>○ホームページの更新がされていて学校の様子がよくわかる。</p> <p>○長寿会の方々との交流を今年も実施していた。核家族化が進む中、意義深いものである。また、地域を愛することにもつながっている。</p> <p>○保護者アンケートでは、各項目で概ね学校に対して好感度をもっていることがわかった。</p>	<p>○ヤギ牧場のヤギや玄関ホールの水族館の飼育、また、各学級での生き物の世話など、他校にはない生き物の多さである。生き物との関わりを通して子どもたちが学んだことは大きいと思われる。</p> <p>○低学年に、有功中学校の生徒会が防犯紙芝居をしてきている。命の大切さ、身を守る術を身につけるとともに、先輩のすばらしさを学んでいる。今後も続けてほしい。</p>	<p>○子どもたちが自分の意見を持ち、発言できることはすばらしいことである。先生の話や友達の考えをしっかりと聞くということを引き続き身につけてほしい。</p> <p>○全教職員が最低1回は研究授業をするということはたいへんだらうが、授業力や教師力を向上させるためにも続けていってほしい。</p>	<p>○生活科や総合的な学習の時間の学びは、他の教科での学習を活用したり、発展させたりするもので、思考力や判断力などを育てることにつながる。子どもたちにとって生きてはたらく力になるものだと思うので、しっかりと取り組んでほしい。</p>
意改善年度法にの対けるの	<p>○出前授業や体験活動で学校外のたくさんの方々子どもたちに関わってくれた。さらに人材リストを充実させ、「人から学ぶ」大切さを学ばせることを望みたい。</p> <p>○学校だより、六十谷の子、ホームページなどを通じて、今後も積極的に情報を発信し、学校の取組や子どもたちの様子を知らせてほしい。</p>	<p>○家庭環境は子どもの育成を大きく左右する要素である。保護者に対してもさらに啓発を深めていただきたい。</p> <p>○保護者のアンケートでは、「いじめ」についての取組は前年度より評価されているようだが、今日的課題でもあるので一層丁寧に、確実な取組を期待したい。</p>	<p>○授業参観では、どの教室でも工夫された授業がなされていた。子どもたちの学力を高めるためにも、楽しくわかりやすい授業になるよう努力を続けてほしい。</p> <p>○家庭での学習は、確かな学力をつけるうえで大きな役割を担う。学校と家庭が連携して学力を向上させるためにも、家庭学習のプランづくりを強く望む。</p>	<p>○市教委の研究指定等で得た財産をもとに、さらに研鑽深め、子どもたちの学習に生かして欲しい。</p>

その他学校運営の改善に関する意見

○平成5年の創立より21年目。教職員の異動等により、若い教職員が増えてきている。さらに開かれた有功東小を創出していくためには、教職員を育て、より高い実践力をつけていってほしい。

○県道拡幅工事関連で、六十谷駅から市高までの区間で交通事情が変わりつつある。児童の安全、特に交通安全教育についても継続的に、繰り返しの指導が必要であろう。

